

造形環境とのかかわりを大切にしたい図画工作科の学習

—複式高学年「素材生き生き夢空間」～中庭変身プロジェクト～の実践を通して—

加藤 潔 己

1 研究の方途

昨年度は「人とのかかわり」に焦点を絞り、「粘土から生まれる新しいかたち」の実践を通して、学習づくりの研究に取り組んだ。焼き物同好会の方という、造形に携わる人との交流を通して、自分たちの造形の世界を豊かに広げることをねらった。二年次目の本年度は「教科の基本的な考え」にすでに述べているように、「ひと」とのかかわりに限定せず、自分を取り巻く環境として、大きく六つの造形環境、つまり、ひと、情報、時間、空間や場、材料、そして用具という対象へのかかわりを総合的に保証するという観点で研究を進めた。本稿では、複式高学年図画工作科授業「素材生き生き夢空間」の実践をもとに、「かかわりづくり」の取り組みの有効性について、六つの造形環境の保証という観点からふり返り、考察したいと思う。

2 実践事例：複式高学年「素材生き生き夢空間～中庭変身プロジェクト」

(1) 題材設定の理由

本題材は、学校の中庭という変化に富む自然空間の中に、その場所の特徴を生かし、素材とその場所を考え合わせながら、新たに自分なりの夢の空間を創造するものである。

いろいろな素材を使って空間を構成したり、作品を置いたりすることで、その場所がそれまでとは異なった、楽しく遊び心のあるところになるように、また見る人がおもしろいと感じるような夢の空間を作ることになる。それは子どもたちにとって、魅力のある活動だろう。そして、飾ったり、仕掛けを作ったりなどの活動を通して、自分たちの夢や願い、自分らしさを表現することが期待できる題材であると考えた。

この題材を、造形環境とのかかわりの視点でとらえると次のようになる。まず、題材名からのイメージが、子どもたち自身の中庭変身プロジェクトに至るまでの構想プロセスにおいて、「情報とのかかわり」がある。次に、主材料になるペットボトルの収集については全校に収集協力を依頼するため、プロジェクトの主旨と材料についての説明において、「ひととのかかわり」がある。さらに、中庭に作る造形物、作品のその「素材（材料）とのかかわり」、そして、それを加工するなどの「用具とのかかわり」、作品を設置し、構成を行う場としての「空間とのかかわり」がある。最後にプロジェクト実行においての「時間とのかかわり」である。この「六つの造形環境」の保証と支援や働きかけのよりよい在り方を探っていくことを大切にしたい。

本学級は複式学級である。子ども達は、5、6年生とも、造形活動に意欲的に取り組み、これまでさまざまな作品づくりをしてきた。しかし今回のように野外での造形活動や、作品づくりなど、環境とのかかわりで制作する経験は少ない。このプロジェクトにより、場所の特徴や空間のおもしろさに目を向け、環境に対しての見方や感覚を豊かにし、造形への新たな広がり期待できるであろう。また、インターネットの活用などの情報収集をプロジェクトの構想に取り入れたり、全校に呼びかけてプロジェクトに参加してもらう活動などを提案することにより、情報やひととのかかわりを広げることなども意義深いと考えた。

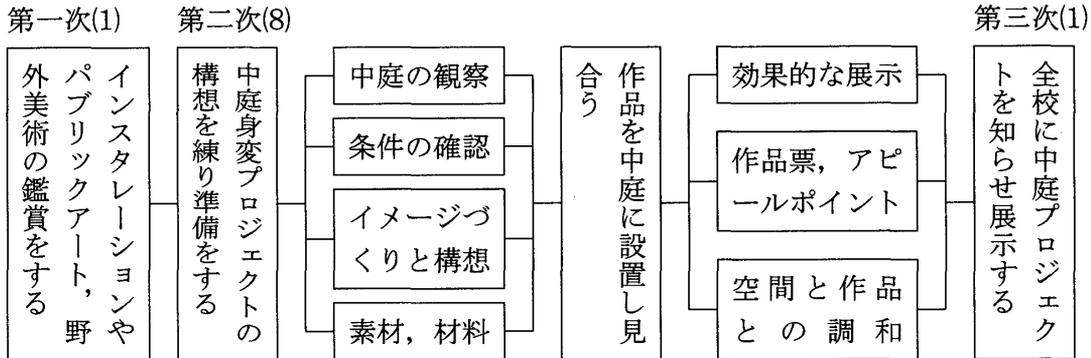
(2) 指導目標

1. 学校の中庭の場所の様子を効果的に生かして表すことに進んで取り組む。
2. 場所の特徴やそこに作る空間が生きる効果的な表現を思いつき、表しながら発想を

広げる。

3. 自分の表現やその場所が生きるような効果的な表現を試みながら表す。
4. 自分や友達の表現を見合い、よさに気づく。

(3) 指導内容と計画.....10時間



(4) 学習の展開の概要

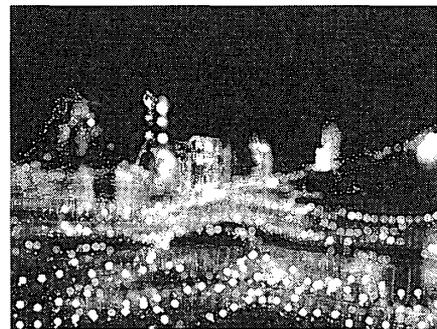
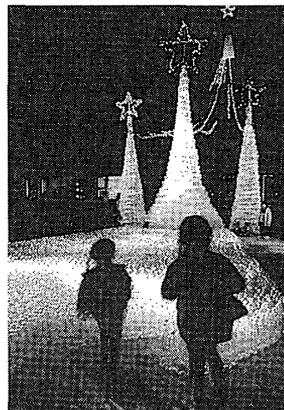
第一次（1時間）

インスタレーション、パブリックアート、野外美術の鑑賞【情報とのかかわり】

子どもたちと題材との出会いの場である。「素材生き生き夢空間」中庭変身プロジェクトは、中庭に自分たちの「夢空間」をつくるというプロジェクトであり、野外の美術、パブリックアート、インスタレーションという情報の提供を行うことになる。

「野外の美術展示を見た経験はありますか」という問いに、子どもたちは、都市の公園のオブジェや美術館の野外展示などを見た経験について話ができた。教科書の写真の提示など、ある程度の情報提供を指導者側から行ったあとは、子どもたちが自分たちで情報収集することを提案した。

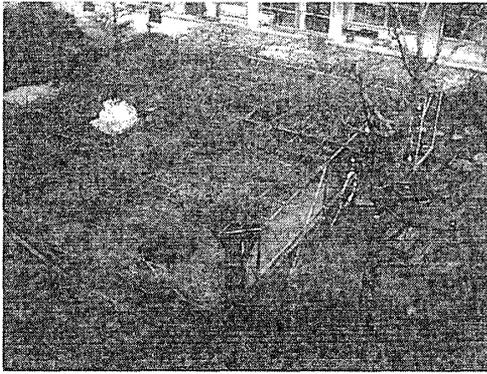
コンピュータールームでインターネットを活用し、情報収集する。「野外美術」、「インスタレーション」の検索結果から、「福山ライトフェスタ2000」「豊橋アートフェスティバル」、「KOBE2000」などのホームページを閲覧し、必要なものを集めた。また、後日、家庭から新聞や広告などの切り抜きを持参した子どももいる。



第二次（8時間）

i) 中庭変身プロジェクトの構想を練る【場、空間とのかかわり】

プロジェクトを展開する場、空間は中庭である。本校の中庭は、十数種類もの木々、花壇、畑、観察池、藤棚、岩石園、鯉の鑑賞池、記念碑など、いろいろなものがあり、休憩時には子どもたちの姿もよく見られる。とくに藤棚は約10メートル四方の大きさがあり、その下には、野外学習用の机もあり、ここでは理科や図工の授業も行われる。本学級の子供たちにとってもなじみ深い場所である。プロジェクト実行に向け、実際に、あらため



て中庭を観察に行く。中庭のどこにどんなものをつくるのか、また、作ることが可能なのは、自分を中庭の空間のなかに置き、例えば、藤棚の高さはどれくらいか、どんな木が何本あるのか、木と木の間はどれくらいの距離かなど、自分の体で空間を認識する必要がある。外から眺めるのと、実際自分が入り込んで見るのでは、大きく違っていることを子どもたちは体験する。また、遊んでいるときには気づかなかつたいろいろな発見が

あったようである。岩石園の石の色や形の美しさや面白さ、あるいは、今まで気がつかなかつた小さな植物の存在、葉っぱの間から藤棚の下の地面に差し込む日差しなど、指導者にとっても、発見は多い。ここで大切にしたいことは、中庭そのもののよさや美しさの再発見であり、その中庭をさらに美しく楽しいものにしたいというモチベーションである。

ii) 制作の条件を考える【材料とのかかわり】

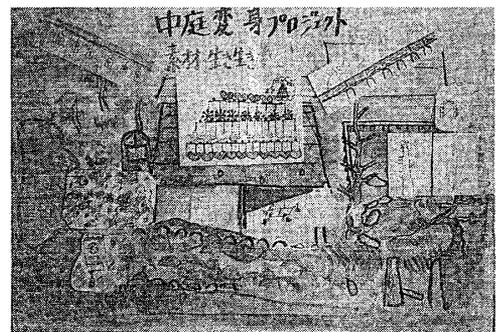
次に、変身プロジェクト(制作)の条件を確認する。この条件とは、中庭をどんなふうに変身させたいかという思いや願いをもとにする。そしてそれはどんな材料を使うのかということにつながっていく。子どもたちは、中庭の観察を終え、中庭のよさを再発見し、「もっときれいにしたい」「きれいに飾りたい」「楽しいものを加えたい」などの思いを持った。

野外であるということで、風雨でこわれたり、時間が経って汚くなってしまえば、中庭は「美しく」、「きれいに」変身したとはいえない。つまり制作に当たっての条件は「ある程度の風雨に絶えうるもの、ある程度時間が経っても汚くならないもの」である。

使う材料は「ペットボトル」を主材料にする。その他に、ガラス瓶、ラミネートしたものなどに決まった。ペットボトルを材料にしたものは、「福山ライトフェスタ2000」、「KOBE2000」のホームページに掲載がある。

iii) イメージづくりと構想

14名の子どもたちが、まず一人一人のアイデアを出し合い、同じようなイメージのものは、共同ですることにして、中庭変身プロジェクトの全体像をまとめた。(右写真) ペットボトルに電飾をしたいというアイデアが出された。「福山ライトフェスタ2000」や「KOBE2000」にも電飾がなされており、また、クリスマスが近づきつつある時期ということで、クリスマスツリーのライトアップの情報も多かったためであろう。ツリー用の電飾も最近是比较的安く市販されている。

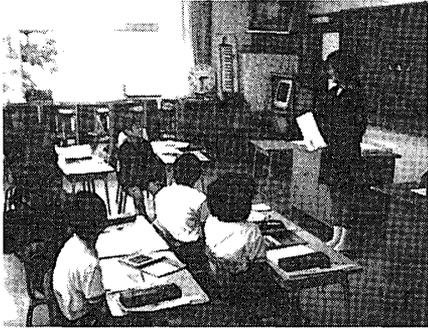


iv) 材料の準備【ひととのかかわり】

ペットボトルの収集は学級の14名が家から持ってきてても限りがある。そこで、収集活動に全校(全校児童数が550名)を巻き込むことを提案した。各学級に中庭変身プロジェクトの主旨説明とペットボトルの収集依頼をすることになる。説明原稿と学級に掲示してもらおうポスターづくりに取り組む。1年生には、家庭に協力してもらえるように家庭配布用のプリントをつくることもアイデアとして出された。

約1週間の間に複式高学年の教室にいろいろな学年やクラスからたくさんのペットボトルが届いた。

集まったペットボトルは総数約600本を越えた。



中庭変身プロジェクト

～お知らせ～
11/9～1/5 ぐら
までに1.5L 2Lのヤ
ットボトルを縦高にたく
さん持ってきて下さい
※持ってこられる人はたく
さん持ってきて下さい
2日目からです(注意)

使いまちは…(?)
・ヤットボトルでツリ→を
作る。
・ヤットボトルの中に人形を
入れておきる。
・ヤットボトルの中に
電球を入れて
光らせろ
! 雑音!

中庭変身プロジェクト

このプロジェクトは、中庭を自分たちの夢の空間に変身させること。そのために、自分たちの作品を中庭に設置し、あらかためて中庭全体を見ることにより、プロジェクトを見直し、改善したり、新たな発想をふくらませたりする時間とした。見直しの視点を二つ設けた。自分の構成する夢空間が、インパクトを与えるおもしろさのある楽しい空間になっているか、そして、自分の選んだ素材による表現が、中庭の場所や自然のなかで効果的に表れているかである。

具体的なには、いろいろな方向や場所から、見直しながら鑑賞するとともに、友達や見てもらっている人にも聞くことをすすめた。

本時の目標 (第二次第6時)

作品を中庭に設置し、自分たちの夢の空間を鑑賞することにより、改善点や新たな発想を考え合い、中庭をさらに楽しく変身させる意欲をもつことができる。

学習の展開

学 習 活 動	教 師 の 働 き かけ
1 作品の設置をする。 ・自分たちの作品 ・参加作品	1 自分の表現が、中庭の空間に効果的に構成できるように、次の観点から設置についてアドバイスをする。 ・見せる方向、固定する方法、安全
2 中庭変身プロジェクト全体を、いろいろな方向や場所から鑑賞し、改善したいところや新たな発想について考える。 ・別の方角、高さから	2 ◎あらかためて自分たちのプロジェクトをいろいろな方向や場所(2階、3階)から鑑賞し合うとともに、見てもらっている人から感想を聞くことをすすめる。
3 ライトアップされた夜の中庭をビデオで見る。	3 夜、暗くなってからライトアップされた中庭をビデオで視聴し、インсталレーションや野外美術の魅力に触れる場を設ける。
4 本時のふり返りをし、次時への見通しを持つ。	4 中庭に設置する自分の作品の思いや次時からの活動(改善点や新たな発想など)について、発表する場を作る。

3 考 察

本実践では、「造形環境とのかかわり」を視点とし、六つの造形環境とその保証と指導、支援の在り方を求めて取り組んだ。その取り組みの有効性について考察したい。

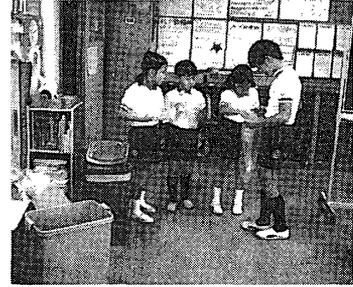
六つの造形環境の保証という観点からのふり返り

【情報とのかかわり】 本題材では導入段階で、情報活用能力育成 (IT教育推進) も含め

vi) 研究会公開授業 平成13年11月21日 (木)

【場 (空間), ひととのかかわり】

研究会当日の授業では、作品を中庭に設置し、あらかためて中庭全体を見ることにより、プロジェクトを見直し、改善したり、新たな発想をふくらませたりする時間とした。見直しの視点を二つ設けた。自分の構成する夢空間が、インパクトを与えるおもしろさのある楽しい空間になっているか、そして、自分の選んだ素材による表現が、中庭の場所や自然のなかで効果的に表れているかである。



具体的なには、いろいろな方向や場所から、見直しながら鑑賞するとともに、友達や見てもらっている人にも聞くことをすすめた。

本時の目標 (第二次第6時)

作品を中庭に設置し、自分たちの夢の空間を鑑賞することにより、改善点や新たな発想を考え合い、中庭をさらに楽しく変身させる意欲をもつことができる。

学習の展開

学 習 活 動	教 師 の 働 き かけ
1 作品の設置をする。 ・自分たちの作品 ・参加作品	1 自分の表現が、中庭の空間に効果的に構成できるように、次の観点から設置についてアドバイスをする。 ・見せる方向、固定する方法、安全
2 中庭変身プロジェクト全体を、いろいろな方向や場所から鑑賞し、改善したいところや新たな発想について考える。 ・別の方角、高さから	2 ◎あらかためて自分たちのプロジェクトをいろいろな方向や場所(2階、3階)から鑑賞し合うとともに、見てもらっている人から感想を聞くことをすすめる。
3 ライトアップされた夜の中庭をビデオで見る。	3 夜、暗くなってからライトアップされた中庭をビデオで視聴し、インсталレーションや野外美術の魅力に触れる場を設ける。
4 本時のふり返りをし、次時への見通しを持つ。	4 中庭に設置する自分の作品の思いや次時からの活動(改善点や新たな発想など)について、発表する場を作る。

3 考 察

本実践では、「造形環境とのかかわり」を視点とし、六つの造形環境とその保証と指導、支援の在り方を求めて取り組んだ。その取り組みの有効性について考察したい。

六つの造形環境の保証という観点からのふり返り

【情報とのかかわり】 本題材では導入段階で、情報活用能力育成 (IT教育推進) も含め

インターネット活用による新しい造形活動への視点を広げることができた。一方で題材名「素材生き生き夢空間」の「夢空間」のイメージ化に向け、指導者の発問と提示資料とそのタイミングも「情報」であり、子どもたちにとってより豊かで主体的な学習となるためのふり返りと吟味が必要である。

【場、空間とのかかわり】子どもたちにとって、中庭という場（空間）のもつ魅力は大きかったといえよう。作品を空間の中で構成したり、空間にかかわっての造形活動を行うことの楽しさを知り、積極的な造形活動が展開した。ただ、中庭の広さに比して14名が造形活動をするにはやはり大きなスケールでの「変身」にはなりにくく、学級をこえて、全校規模のプロジェクトにしていくことも検討したい。

【材料とのかかわり】素材として、ペットボトルは軽くて丈夫で、今回の造形活動に適していた。リサイクル、環境教育の観点につながる。家庭で収集しやすく、全校へのかかわりを生んだ。

また風雨に強い素材として、プラスチック板や瓶、ラミネート加工した折り紙などいろいろなアイデアが子どもたちから提案された。

【用具とのかかわり】ペットボトルを加工する主な用具としてハサミとカッターナイフを用意したが、特にペットボトルの切断については、予想外に時間がかかった。切断と接合の技術的な指導、支援は「情報」としても必要である。

【ひととのかかわり】学級の14名が中庭変身プロジェクトの主旨説明とペットボトルの収集依頼をすることを通して、自分たちの願いをどのように全校へ広げればよいのか一人一人が主体的に取り組めた。他学級へ一人ずつが出向き、説明をし、質問に答える経験は、大きな自信につながった。

いろいろな学年、学級の子がペットボトルを持ってきてくれるたびに、複高の子どもたちのうれしそうな表情があった。

【時間とのかかわり】指導時間数を10時間としたが、少人数学級ではもう少し余裕がほしい。中庭の広さと学級人数の関係があるが、来年度は学級を越えたスケールで取り組みたい。もう一方で、時間はかかるが、プロジェクトの主旨説明や依頼、そのための準備の時間は大切にしたい。

4 研究をふり返って

本題材は多くの「造形環境とのかかわり」を保証し、造形の世界を広げることができると考える。本複式学級の子どもたちには、プロジェクトという提案によって、特にひととのかかわりで造形する喜びが大きかったようである。また、夜間のライトアップについては、今後の図画工作科の題材の可能性を広げるものとして開発を検討していきたい。

